

ともに支えあう、多文化共生のまちづくりを

平成26年12月末の大阪市の外国人住民数は11万6千人余りとなっており、本市人口の約4.4%を占めています。これは政令指定都市の中でも最も高い比率となっており、130を超える国・地域の外国人住民の方が暮らしています。

大阪市では外国人住民を含むすべての人々が、最大限にその能力を発揮できるようなまちづくり・社会づくりが必要と考えています。しかし、近時において、特定の国籍の外国人などを排斥し、差別を助長する、いわゆる「ヘイトスピーチ」が公然と行なわれるなど、外国人などを巡る人権問題について憂慮すべき状況が生じています。こうした行為は人々の心を深く傷つける人権侵害にあたり、差別意識を生じさせることにもなりかねないもので、許されるものではありません。

国籍や民族などの違いにかかわらず、多様な文化、習慣、価値観等を認め合い、誰もが個人として尊重され、そして、ともに社会の一員として暮らし、活躍できる、「すべての人の人権が尊重される社会」、「豊かな多文化共生社会」を築いていきましょう。

「やさしい日本語」での情報発信が始まっています。

大阪市では、『人権の視点からの情報発信の手引き』において、「だれもが正しく情報を得ることができるように、情報の受け手の立場に立って表現することが必要」と捉えており、「絵文字（ピクトグラム）を使い、こどもや日本語を母語としない方を含め、だれにでもわかりやすく表示する。また、漢字には情報の受け手に応じてルビ（ひらがな）を付ける。」といった、配慮をした情報発信を心がけることを進めています。

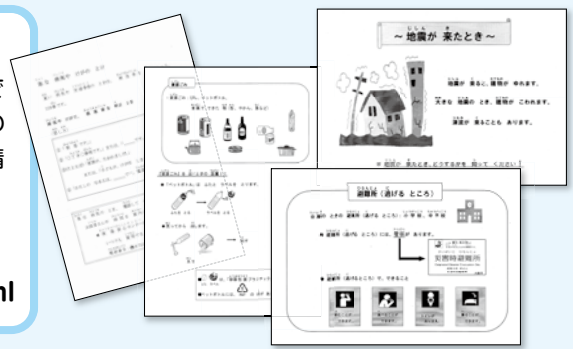
また、外国籍の方々には、多言語で情報を発信していくことが望ましいのですが、外国籍の方々が使っているすべての言葉を多言語で対応することは難しいことから、日本語に慣れていない方でも、やさしい日本語（※）を使用すれば、理解できることがあります。そのような状況を踏まえ、多言語化とともに、やさしい日本語や絵文字を使用した情報発信の試みが始まっています。

「やさしい日本語」とは

普段使っている日本語よりも簡単でわかりやすい日本語のことです。日本語の読み・書きが難しい、こどもや外国籍の方、知的障がいのある方等に向けて、「やさしい日本語」で発信されている大阪市の情報を掲載しました。

「やさしい日本語」による情報発信一覧

<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000272724.html>



■ 問い合わせ…市民局ダイバーシティ推進室人権企画課 TEL 6208-7619 FAX 6202-7073



おおさか歴史探訪 88

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

宮武外骨 ー大阪で活躍した反骨のジャーナリストー

昨今、報道の自由やパロディの是非といったことが話題になっていますが、これに関連して、大阪で活躍したジャーナリスト宮武外骨（1867～1955）を紹介します。もとは亀四郎（かめしろう）といいましたが17歳の時に改名し、この名前になりました。

宮武は明治・大正期に、言論の自由と、政治・社会の腐敗を訴えてさまざまな活動をおこないました。創刊した新聞、雑誌はたくさんありましたが、時の政府の検閲で問題とされ、そのうちの過半数が創刊早々に廃刊となりました。『頓智協会雑誌』という雑誌に大日本帝国憲法発布をパロディ化した「頓智研法下賜発布式」という記事を書きましたが、これの挿絵が不敬罪とされ重禁錮3年とされるなど、実刑判決を受けて投獄されることもしばしばでした。

明治33年に大阪に居を構え、大正4年まで活動しました。この間に『滑稽新聞』を刊行しましたが、最盛期には8万部が売れ、当時の雑誌としてはトップクラスの人気だったといえます。毎月2回発行し、内容は悪徳政治家・官僚や悪徳新聞などを攻撃するのが中心でした。この雑誌を発行していた8年間に、宮武は入獄2回、罰金刑13回、発行停止4回などの処分を受けました。当局の弾圧が厳しくなり、明治41年、173号をもって廃刊となりましたが、その後すぐさま『大阪滑稽新聞』という名前に変えて、活動を続けました。宮武の反骨精神の気概が感じられます。

（大阪市教育委員会 文化財保護担当）



滑稽新聞社があった西区江戸堀2丁目には、顕彰碑と解説板が建っています